

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「わたしの生活は、わたしが創ります」  
 ○学んだことを生かして主体的・対話的に考え、深く学び続ける子(知)  
 ○互いのよさを認め合い、よりよい生き方を求め、協力し合う子(徳)  
 ○命と体を大切に、心身共に健やかな体をつくる子(体)  
 ○進んで人のために役立つとうし、地域に愛着をもつ子(公)  
 ○広い視野をもち、チャレンジし続ける子(開)

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉  
 〈問題発見・解決能力〉  
 〈自分づくりに関する力〉

#### 具体化した資質・能力

・思いを受け止めて聞く力 ・伝える内容を整理する力  
 ・問題を発見する力 ・課題を設定する力  
 ・好奇心 ・主体性・積極性

#### 中期取組目標

- 家庭・地域と連携し、地域の教育力を活かしながら、子どもが安心して生活できる学校づくりをすすめます。
- 教職員一人ひとりの持ち味を生かし、互いに啓発・連携し合い、全員で学校づくりに参画できるようにします。
- 子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的に考え、表現できる学びを充実させます。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①並一タイム(生活・総合的な学習の時間)を中心に、子どもが自分の思いを大切にして、地域の「人・もの・こと」と関わりながら主体的に学びを深めていくため、授業研究会を行い外部講師の指導を仰ぎ、教師の指導力向上を目指す。②スキルタイムを活用して、漢字や計算など基礎的な学力の向上を目指す。
担当	研究開発運営部

#### 学力向上に関わる本校の状況

横浜市学力学習状況調査等からの実態把握  
 (1)学力の概要と要因の分析  
 昨年度までの市学力状況調査からみても、全体的に子どもの学力は市の平均以下で低い。生活・総合的な学習の時間(並一タイム)の学習意識が高まっている学年が昨年度よりも増えているが、まだ学力向上とリンクしているとは言えない。算数の効果的な指導や、教科分担制などを取り入れ指導をしていく。  
 (2)教科学習の状況  
 ○国語科:「読むこと」「言語」分野に課題がみられる。正しい漢字を覚え日常でも使う、短い作文を書く経験を増やすなど、基礎的なことを身に付ける取組が必要である。  
 ○算数科:低学年は「数量関係」、高学年は「量と測定」の「数学的な考え方」に課題がみられる。基本的な四則計算の習熟と各領域における基本的な習熟が喫緊の課題である。

#### 今年度の目標

子どもが自分の思いを実現するために、地域の「ひと・もの・こと」と関わりながら、主体的に取り組む学習活動を通して、基礎的な学力を身に付けるられるようにする。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①子どもたちが生き生きと主体的に課題を解決することができる授業を目指して、生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進め、教員同士で互いの授業を見合いながら指導力を磨ける環境を整える。 ②「豊かにかかわり、じっくり考える子」を意識した授業展開を図るとともに、特別支援教室やTT指導・教科分担制を取り入れ、児童の理解と意欲を高め、基礎・基本の定着を目指す。 ③日課表にスキルタイムを取り入れ、「読み」「書き」「計算」の基礎的・基本的な知識や技能の習熟を計画的に行う。とりわけ算数については、子どもの実態を学年で共有し、子どもの実態に合った共通した課題に取り組むようにする。
下半期	④教師が各課題において考える視点を子どもに示し、その上で子どもたちが「わたしはこう思う。理由は○○だから。」と、課題についての自分の考えをもてるようにしていく。また、その考えを友達に伝える手段として、ペアや少人数で話し合う時間やノートに考えをまとめる時間を意図的に設定したりする。 ①子どもたちが生き生きと主体的に課題を解決することができる授業を目指して、生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進め、教員同士で互いの授業を見合いながら指導力を磨ける環境を整える。 ②「豊かにかかわり、じっくり考える子」を意識した授業展開を図るとともに、特別支援教室やTT指導・教科分担制を取り入れ、児童の理解と意欲を高め、基礎・基本の定着を目指す。 ③日課表にスキルタイムを取り入れ、「読み」「書き」「計算」の基礎的・基本的な知識や技能の習熟を計画的に行う。とりわけ算数については、子どもの実態を学年で共有し、子どもの実態に合った共通した課題に取り組むようにする。 ④教師が各課題において考える視点を子どもに示し、その上で子どもたちが「わたしはこう思う。理由は○○だから。」と、課題についての自分の考えをもてるようにしていく。また、その考えを友達に伝える手段として、ペアや少人数で話し合う時間やノートに考えをまとめる時間を意図的に設定したりする。

#### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①発達支持的児童指導を大切にし、子どもたちが支え合う風土を高める。②「だれもが」「安心して」「ゆたかに」のキーワードを共有し、一人ひとりが安心して学べる学校をつくる。③日々の授業や活動、関わりを通して、自尊感情や自己有用感を育む。④ピンクシャツデーや横浜こども会議など、子どもたちが主体的に取り組む。⑤職員研修に取り組む。
担当	児童支援運営部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心にかかわる児童の実態  
 ○R7年度学校評価アンケートから  
 ・「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせるよう努めている。91%の保護者が(およそ)できている。  
 ・「安心して学校生活を送っている」89%の子どもが(少し)そう思う。  
 ・「相談しやすい環境づくり」に努めている」91%の保護者が(およそ)できている。  
 ・「相談のつてくれる」89%の児童が(少し)そう思う。  
 ・「進んであいさつ」について、89%の保護者が(およそ)出来ている。  
 ・「あいさつを進んでいる」については、90%の子どもが(少し)そう思う。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
 ○児童会を中心に、あいさつ運動を実施。様々な国のあいさつを紹介している。  
 ○ペア学年による交流。ふれあい遠足、日常の学習活動中での交流を行っている。  
 ○道徳教育を推進し、授業参観を実施している。  
 ○人権週間では友達のよさを伝えあう活動を実施。  
 ○毎月の職員会議内で児童理解の時間を設け、子どもの状況を共通理解している。状況に応じて、その他の場でも情報の共有化を図っている。

#### 今年度の目標

子どもたちが「自分を大切に」「友達大切に」できるよう、互いの関わりを深める。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○職員研修の充実「発達支持的児童指導(子どもたちが支え合う風土を高める)」「人権教育(誰もが安心して豊かに学べる学校づくりなど)」「自尊感情や自己有用感を育む」 ○ピンクシャツデーや横浜こども会議など、子どもたちが主体的に取り組む活動の充実 ○児童会活動で引き続きあいさつ運動を実施するとともに、学級による取組も開始する ○ふれあい遠足を中心にしつつ、ペア学年活動を年間通して継続的に行う。 ○外国籍やつながる子どもの一人ひとりのニーズを把握し、「国際教室」「担任」「本人」「保護者」で丁寧に共有しながら、日々の指導を積み重ねる。 ○子どもや保護者の支援のために金沢国際交流ラウンジ等と連携する。 ○一人ひとりのニーズに応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用。 ○一般学級や通級指導教室、個別支援学級、特別支援教室などの学びとの連携をはかる。 ○Y-Pに基づいた児童理解を行い、Y-Pプログラムの実施により、自己肯定感の向上、居場所の確保、SOSサインの出し方の習得、発達支援的生徒指導(児童支援)などにつなげる。 ○SC等の心理の専門家から、発達特性やその効果的な関わり方について助言を受ける。 ○南部地域療育センターのソーシャルワークによるコンサルテーションを実施する。
下半期	○職員研修の充実「発達支持的児童指導(子どもたちが支え合う風土を高める)」「人権教育(誰もが安心して豊かに学べる学校づくりなど)」「自尊感情や自己有用感を育む」 ○ピンクシャツデーや横浜こども会議など、子どもたちが主体的に取り組む活動の充実 ○児童会活動で引き続きあいさつ運動を実施するとともに、学級による取組も開始する ○ふれあい遠足を中心にしつつ、ペア学年活動を年間通して継続的に行う。 ○外国籍やつながる子どもの一人ひとりのニーズを把握し、「国際教室」「担任」「本人」「保護者」で丁寧に共有しながら、日々の指導を積み重ねる。 ○児童や保護者の支援のために金沢国際交流ラウンジ等と連携する。 ○一人ひとりのニーズに応じた個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用。 ○一般学級や通級指導教室、個別支援学級などの学びとの連携をはかる。 ○Y-Pに基づいた児童理解を行い、Y-Pプログラムの実施により、自己肯定感の向上、居場所の確保、SOSサインの出し方の習得、発達支援的生徒指導(児童支援)などにつなげる。 ○SC等の心理の専門家から、発達特性やその効果的な関わり方について助言を受ける。 ○南部地域療育センターのソーシャルワークによるコンサルテーションを実施する。

#### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①横浜市体力・運動調査や健康診断の結果から、家庭と連携し、基本的な生活習慣を身に付けようとする姿勢を培う。また、日常的に体力向上を図るための取組を行う。 ②学校保健委員会を開催し、家庭や地域及び関係機関と連携を図り、健康習慣が身に付くようにする。
担当	総務運営部・体育部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態  
 ・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣が身に付いていないと感じている子どもが多く見られる。  
 ・「ちょっとした運動でけがをする子が増えた」  
 ・体力テストの結果は、全国や市の平均と比べ、下がっている種目が多い。  
 ・外遊びを好む児童と内遊びを好む子どもの二極化が見られる。  
 ・低学年からゲームや動画などスマホやパソコンなどを夜遅くまで長時間視聴している子どもの割合が増えている。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
 ○縄跳び集会や中休みの遊びなど、スポーツ委員会や集会委員会・保健委員会の児童が計画し、外遊びの機会を増やすようにした。  
 ○学校保健委員会で、心と体の健康について毎年テーマを設け、クラスで話し合ったことをもとに代表が集まって意見を交流し合った。昨年度は室内遊びや教師との遊びを通して運動に親しむ機会を設けてきた。  
 ○体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめたり、動画を撮ってお互いにアドバイスし合ったりできるようにしている。

#### 今年度の目標

- ①横浜市体力・運動調査や健康診断の結果から、家庭と連携し、基本的な生活習慣を身に付けようとする姿勢を培う。また、日常的に体力向上を図るための取組を行う。
- ②学校保健委員会を開催し、家庭や地域及び関係機関と連携を図り、健康習慣が身に付くようにする。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○毎日学校に来ることが、生活習慣の定着になるため、学校に来たいと思える学級経営をしていく。安心感、一人ひとりの居場所づくり、わかりやすい授業により一層力を入れる。 ○横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果からわかった自分の課題や学年やクラスの傾向から、具体的な取組を実践する。 ○スポーツを通して自分の思いを表現できる力を育成するために、体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめられるようにしたり、タブレットなどのICT機器も活用してお互いにアドバイスし合ったりできるようにする。 ○体を動かす楽しさを感じられるように、スポーツ委員会や集会委員会、保健委員会を中心として、集会や中休みで外遊びの機会を設けるようにする。 ○家庭科等で、調理(実習)などを通して栄養のことについて実感をともなった理解を進める。 ○栄養士と連携し、食の大切さについて給食指導を中心に伝えていく。 ○「学校保健委員会」を通して保護者や地域および関係機関との連携をとり、運動などへの関心を高め、主体的な生活習慣の改善につなげる。
下半期	○毎日学校に来ることが、生活習慣の定着になるため、学校に来たいと思える学級経営をしていく。安心感、一人ひとりの居場所づくり、わかりやすい授業により一層力を入れる。 ○横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果からわかった自分の課題や学年やクラスの傾向から、具体的な取組を引き続き実践する。 ○スポーツを通して自分の思いを表現できる力を育成するために、体育科の授業で学習カードに自分の考えをまとめられるようにしたり、タブレットなどのICT機器も活用してお互いにアドバイスし合ったりできるようにする。 ○体を動かす楽しさを感じられるように、スポーツ委員会や集会委員会、保健委員会を中心として、集会や中休み以外遊びの機会を設ける。 ○家庭科等で、調理(実習)などを通して栄養のことについて実感をともなった理解を進める。 ○栄養士と連携し、食の大切さについて給食指導を中心に伝えていく。ランチ委員会を中心に、給食週間の取組を全校で取り組み、食に興味をもてるようにする。 ○「学校保健委員会」を通して保護者や地域および関係機関との連携をとり、運動などへの関心を高め、主体的な生活習慣の改善につなげる。